

シマムセンオーディオ試聴会 (2018.8.5)

—HARMAN Sound Caravan 試聴会—

1. はじめに

シマムセンで開催された HARMAN Sound Caravan 試聴会に行ってきました。

2. 使用機器

Mark Levinson の機器が一堂に会し、JBL と REVEL オーディオのスピーカーが準備されていました。

**Sound Caravan**  
 ~Mark Levinson の誇るハイエンド・オーディオ・コンポーネントが一堂に~

Mark Levinson REVEL Mark Levinson & REVEL Audio

- レコードプレーヤー No.515 ¥1,000,000
- プリメインアンプ No.52 ¥3,500,000
- プリメインアンプ No.526 ¥2,150,000
- プリメインアンプ No.523 ¥1,750,000
- パワーアンプ No.536 ¥1,600,000
- ステレオパワーアンプ No.534 ¥2,150,000
- デジタルオーディオプレーヤー No.519 ¥2,150,000
- スピーカー ULTIMA SALON
- スピーカー Project EVEREST DD67000 ¥6,000,000
- スピーカー PERFORMA F228Be ¥1,160,000

8月4日(土) ① 13:00 ~ 15:00  
 ② 16:00 ~ 18:00  
 8月5日(日) ① 12:00 ~ 14:00  
 ② 15:00 ~ 17:00

機材	レコードプレーヤー	Mark Levinson	No.515
	デジタルオーディオプレーヤー		
		Mark Levinson	No.519
	プリメインアンプ	Mark Levinson	No.585.5
	プリメインアンプ	Mark Levinson	No.52
		Mark Levinson	No.526
		Mark Levinson	No.523
	パワーアンプ	Mark Levinson	No.536
		Mark Levinson	No.534
	スピーカー	REVEL Audio	ULTIMA SALON
	REVEL Audio	PERFORMA F228Be	
	JBL	DD67000	



当日のセッティング

### 3. 試聴の経過

試聴は REVEL オーディオのブランド立ち上げの経過説明から始まり、個々の機器の説明を交えながら、アナログは Mark Levinson No.515 で、CD と USB メモリーのファイル音源は Mark Levinson No.519 で再生されて試聴が進行しました。なお、カートリッジは Ortofon のカデンツアレッドが使用されました。



最初の組み合わせは、REVEL Audio の PERFOMA F228Be をメインアンプの No.585.5 で駆動することから始まりました。1曲目は USB メモリーから 96KHz24bit の女性ボーカルのファイル音源、2曲目はアナログの女性ボーカルがかかりましたが、ファイル音源はクリーンでクールな印象、アナログは厚みが増してウォームトーンの印象でした。3曲目は CD でピアノとバンドネオンのアルゼンチンタンゴでしたが、切れ味の良い浸透性のある音がしました。

ここでアンプを変更し、プリアンプの **Mark Levinson No.523** とステレオパワーアンプの **Mark Levinson No.534** による駆動になりました。

この組み合わせで、アナログの女性ボーカル、クラシックギターで三角帽子のギター編曲版、アナログでムターとウイーンフィルのチャイコフスキーのV協がかけられました。セパレートアンプになって力強さが出てきましたが、問題は音の質感でギターはアコースティックギターからエレキギター寄りのような音がしましたし、ムターのヴァイオリンもウイーンフィルも、実際に演奏会で聴いていますが、生で聴くような音の質感が十分にいきっていない印象です。

ここでスピーカーを **REVEL Audio** の **ULTIMA SALON** に替え、CDの女性ボーカルとアナログのギターデュオを聴きましたが、切れが良く、立ち上がりの良い音をする反面、音の質感がメタリックになり、バックのピアノが電気ピアノのような音に聴こえました。**ULTIMA SALON** は、ツイーターがベリリウムで、その他はオールチタンドームですので、こういった材質に由来する音ではないかと思われま

す。ここでプリアンプはそのまま、パワーアンプはステレオアンプからモノアンプの **Mark Levinson No.536** の2台駆動になりました。ここでベートーベンのチェロソナタとムターのヴァイオリンがかかりましたが、力強さはあるものの、弦の艶っぽさはさらに後退したように感じました。

最後に、スピーカーを **JBL** の **DD67000** に替え、アナログで女性ボーカル、ヒュージョン、ビッグバンドがかかりましたが、さすがに格上の音がして迫力満点です。しかしながら、大きなホーンを使用していますので、ボーカルなどは音像が大きくなりすぎる傾向がありました。

#### 4. まとめ

**REVEL Audio** のスピーカーは小気味よい鳴り方をしますが、**ULTIMA SALON** より **PERFOMA F228Be** の方がよい印象を持ちましたし、**JBL** の **DD67000** は格上の音がしました。アンプを含めた全般的な印象としては、クラシックよりは、その他の音楽ジャンルに向いているようでした。アナログプレイヤーは非常に安定した音が出ていたので、アンプやスピーカーをクラシック向けに替えて聴いてみたいと思いません。

以上